



月刊バイブル（世界のベストセラー、聖書のトリビア）

第2号

発行:レムナントキリスト教会

価格:100円（送料込みで200円）

〔目次〕

- ◎聖書からのメッセージ:愚か者は心の中で「神はいない」と言っている
- ◎聖書と文学:芥川龍之介「続西方の人」から
- ◎科学と聖書:聖書の記述は歴史的に正確である
- ◎箴言から学ぼう! :「神の知識」を見出すために
- ◎聖書の視点から「死後」について考える:イエスさまを信じないとどうなるの?
- ◎キリストを信じた体験談:コンサートでの出来事
- ◎聖書と偉人:フレミングのことは
- ◎ご案内

<聖書からのメッセージ>

愚か者は心の中で「神はいない」と言っている

〔聖書箇所〕詩篇14:1

14:1 愚か者は心の中で、「神はいない。」と言っている。彼らは腐っており、忌まわしい事を行なっている。善を行なう者はいない。

聖書はどういう本か?と言うと「神」について書いてある本です。そもそも分厚い聖書の最初の一文からして、「**初めに、神が天と地を創造した。**」と神について書かれています。ですので、神という方の存在を抜きにして、聖書を理解することはできないのです。さて、そうではあるのですが、日本では神は存在していないことになっています。日本の学校では人間は偶然に進化したものであり、神など存在しないということになっているので、神さまの存在を信じる人など、この国では迷信を信じているかのようです。

しかし、果たしてそうなのでしょうか?人間も動物も偶然に生まれてきたものであり、神など存在しないのでしょうか?簡単な構造の箸一本すら、偶然には出来ません。まして、どのようなコンピューターにも勝る頭脳を持つ複雑な構造を持つ人間は、偶然になどできるとはとても思えないのですが、どうなのでしょう?ところで聖書は進化論だとか、無神論だとかの理論をもって、「**神はいない**」と語る人々は「**愚か者**」であると断定しているのです。これは現在の日本の常識とは違うようですが、どちらが正しいのでしょうか?

ここで少し話は変わりますが、このことを理解する助けになるかと思しますので一つの国、神を追い出した国のことを語りたいと思います。それは世界で初めて無神論共産主義を唱えたソ連という国のことです。1917年にソ連、今のロシアはロシア革命を行い、世界の歴史の中で初めて無神論共産主義を国として取り入れま

聖書からのメッセージ:愚か者は心の中で「神はいない」と言っている

した。神や靈魂などこの世には存在しない、この世はただ物質のみで出来ているとして、唯物主義を国として取り入れたのです。そしてその唯物主義を徹底して、神だの靈魂だのと語るキリスト教会やクリスチャンたちを迫害しはじめたのです。宗教はアヘンである、と語る共産主義者マルクスの教えに従い、国中のキリスト教会の会堂を閉鎖し、神や聖書を信じるクリスチャンを強制収容所に送り込みました。そこで拷問や洗脳を行い、宗教を国から根絶しようとしたのです。神などいない世界、自由な世界を夢見た彼らは世界の理想郷を作るべく、神のいない世界を作り上げようとしたのです。そしてその結果どうなったのでしょうか？

結論として言えることはその結果、それぞれ地獄のような国が出来上がりました。神を否定する共産党政権は次々に国民を逮捕、投獄、粛清していきました。結果、共産党政権下で何と6,000万人以上の国民が命を奪われたのです。「収容所群島」を書き、ノーベル文学賞を受賞したソルジェニーツィンによれば、「国民の3分の1を断頭台に送った」と、恐るべき殺戮国家が出来上がったのです。

神を公に追い出し無用のものとし、自分たちだけで神なしで、世界の理想郷を作れると豪語した国の末路は恐るべき悲惨なものとなってしまったのです。そしてこれはソ連だけの話ではありません。ソ連に倣い同じく神を追い払い、無神論共産主義を受入れた国々は皆同じような悲劇的な国、悲惨な国を作るようになりました。共産主義を受入れた中国は暴君、毛沢東の下で7,000万人もの国民の命を犠牲にしました。また、同じく共産主義を受け入れたカンボジアは、その神なき政治の下で数百万人もの国民を殺害し、その国はキリングフィールド（殺害の地）と呼ばれるようになりました。

現在でも共産主義の国、北朝鮮は同じような悲劇の下にあり、この国の下で多くの国民は不幸の中を歩んでいます。

これらのことは偶然なのでしょうか？公に神を否定し、神を追い出した国が軒並みこれ以上はないような悲惨な地獄のような国に陥ってしまうのは偶然なのでしょうか？私にはとてもそ

うは思えません。たしかに神は目に見えない方なのですが、だからといって存在していないとは断言はできないのです。むしろこれらの神を追い出した共産主義の国々の悲惨を通して、神はその存在を語られているのではないのでしょうか？

こんな例を語れば少しはこの話を理解していただけるのでしょうか？ある時、ある会社の部署である男性Aさんがリストラ候補になりました。彼は見るからに能力が低そう、見た目もよくない、話も下手だし、ということで彼を首にしたほうが会社の利益になり、無駄な給料も抑えられそうに思えたのです。ところが彼を仕事から外したら思いがけないことが起こりました。業務がうまく回らなくなり、仕事がストップしてしまったのです。じつは彼Aさんは見えないところで大いに会社に貢献していたのですが、それは彼を仕事から外すまで分からなかったのです。

このようなたとえで神の存在に関して語るのは恐縮ですが、目に見えない神さまも同じなのではないのでしょうか？たしかに神は目には見えないのですが、しかしだからといって私たちと無縁、また、国の歩みに関しても無縁の方ではないのです。しかし愚かな人々は、「**神はいない**」と思い込み、結果、神を追い出し、とんでもない失敗を行い、悲劇的な国を作り、人類史上前代未聞の大変な災いに入っていくのです。これは国に関することですが、しかし個人に関しても同じであることを知りましょう。私たちが自分の人生から神を追い出すなら、やはり悲惨な歩みに入る可能性があることを知りましょう。



無神論共産主義国ソ連を打ち立てたレーニン

聖書と文学：芥川龍之介「続西方の人」

芥川龍之介は、日本では知らない人のいない有名な小説家です。現在でも彼の名は芥川賞に名をとどめ、この賞は小説家を目指す人の有望な登竜門となっています。日本には過去多くの小説家が存在しましたが、その中でも彼ほど才能や機会に恵まれた小説家は珍しいように思えます。

時の文豪、夏目漱石に激賞された「鼻」をはじめ、彼の書く小説は人生の微妙なひだを銀のスプーンですくい取ったような珠玉の作品に満ちています。帝大出の申し分の無い学歴、小説家としての溢れる才能、名声、さらにそのハンサムな外見など、彼の人生は外から見ると、これ以上はないような順風満帆の歩みのように思えます。

しかし彼は名声の真只中で、睡眠薬自殺で突然その生涯を閉じてしまいます。その彼の遺稿となった作品が「続西方の人」なのです。

「西方の人」とは、他でもない聖書に登場するイエス・キリストのことであり、芥川が彼なりにキリストに関して書き記した文が、彼の最後の文章「続西方の人」なのです。そして当時の新聞は、彼、芥川龍之介が自殺したその彼の部屋の机の上にたった一冊の本、聖書が置かれていたことを報道しています。これらの事実を通して良くも悪くも聖書は彼の人生、特に最晩年の彼に対して大きな影響を与えた書であることが伺えます。

彼はこの書の中で、彼がこの文章を書くようになった次第を以下のように語っています。

「今は多少の閑ひまのある為に、もう一度わたしのクリストを描き加へたいと思つてゐる。誰もわたしの書いたものなどに、殊ことにクリストを描いたものなどに興味を感じずるものはないであらう。しかしわたしは四福音書の中にまざまざとわたしに呼びかけてゐるクリストの姿を感じてゐる。」

彼は自分で聖書を開き、キリストのことばを記した四福音書を読むときに、その書が単なる文章や活字というより、そこから**「まざまざとわたしに呼びかけてゐるクリスト(キリスト)の姿を感じてゐる」**と語っているのです。すなわち彼に呼びかけるキリストの声を、彼は聞いたと語るのです。このようなことばを聞くとき、個人的には彼のその時の心情を思つて暗澹たる思いになります。世間では

天才小説家と、もてはやされていますが、しかし精神を病み、斎藤茂吉の精神病院から薬をもらっていた彼が、その生涯の最後にキリストからの声を聞こうとし、聖書を開き、その福音書からキリストの声を聞いていた彼の心情を思われるのです。しかし彼は結局のところ、キリストに救いを求めることもなく、一人で死へ向かってしまったのです。その時の彼の孤独や絶望を思うと、胸が痛い思いがします。このような彼の最後の姿を思うとき、聖書に書かれている、「金持ちの青年」の姿とダブります。救いを求めつつ、しかし結局はキリストのもとを去ってしまった以下の金持ちの青年の姿とダブるのです。

【聖書箇所】マタイの福音書19:20-22

19:20 この青年はイエスに言った。「そのようなことはみな、守っております。何がまだ欠けているのでしょうか。」

19:21 イエスは、彼に言われた。「もし、あなたが完全になりたいなら、帰つて、あなたの持ち物を売り払つて貧しい人たちに与えなさい。そうすれば、あなたは天に宝を積むことになります。そのうえで、わたしについて来なさい。」

19:22 ところが、青年はこのことばを聞くと、悲しんで去つて行つた。この人は多くの財産を持っていたからである。

この青年は全てを捨ててキリストに従うことを躊躇させる多くの財産を持っていました。この財産が、彼がキリストに従うことを留めたのです。同じく芥川も、この世の金銭はともかく、人間的にはあまりにも有能、また才能、名声に秀でており、全てを捨ててキリストに聞くことは、もしかしたら彼にはできなかったのでは？と、そんな感想を個人的には思うのです。



芥川龍之介

聖書と科学: 聖書の記述は歴史的に正確である

前回は聖書の記述が科学的なものであることを見てきました。今回は聖書の記述は歴史の史実に基づいており、歴史や考古学と矛盾していない、ということを見ていきましょう。歴史的に真実ということを考えてみましょう。たとえば私たちの知る物語やおとぎ話には、すばらしいヒーローや超人が出てきます。ウルトラマンや仮面ライダーやら、どらえもんやらすばらしいヒーローは多いのです。しかし残念ながら、彼らは現実の世界に生きていたわけでも、実在の人物でもありません。彼らは歴史的には実在せず、真実でもありません。

しかし聖書のすばらしいところ、特別なところは、この聖書の記述は良くも悪くも現実の歴史、リアルな歴史の出来事を羅列した書である、ということです。聖書に登場する人物、すなわちアブラハムもモーセもダビデもソロモンも、そしてイエス・キリストもペテロもパウロも皆、実際の歴史に登場した実在の人物なのです。聖書はこのこと、その人物や出来事が歴史的な事実であり、検証可能であるということに強調点を置いており、たとえばイエス・キリストにしても、その先祖の系図が全て記録、記載されています。

さて、聖書はこのような歴史的な書なのですが、そのことに疑問を持つ人と反対意見を語る人が全く存在しなかったわけではありません。じつは18世紀頃の無神論的な思想の流行に伴い、人々は聖書の歴史的な記述に疑問を抱き、聖書の記述は作られた物語ではないのか？という考えが現れました。

しかしそれらの疑問も、19世紀から20世紀に起きた多くの考古学的発見に基づき、解消されていきました。考古学者の発掘に伴い、聖書の多くの歴史的記述の正確さが立証されるようになったのです。このことに関連して著名な考古学者ウェルネル・ケラーは、彼の考古学研究の成果をその著『歴史としての聖書』にまとめ、その序文にこう書きました。

「正しく十分に証明された圧倒的な量の事実が、正しく利用される現在、18世紀以来の聖書を抹殺しようとした懐疑的な批評が転倒したことを思う時、私の頭の中には、次の一文が強く響き続けている。『聖書はやはり正しい』」。

聖書が歴史的に正確である、その例を見てみましょう。たとえば今から3000年以上前の出来事を記した出エジプト記には、モーセと関連して以下のように、エジプトのパロ王がイスラエル人を苦しめるために今までと異なり、途中からレンガ作りのた

めにわらを与えないように命じたこと、そのためイスラエル人は仕方なく、わらの代わりに刈り株を探したことが描かれています。以下の通りです。

[聖書箇所]出エジプト記5:6-12

5:6 その日、パロはこの民を使う監督と人夫がしらに命じて言った。

5:7 「おまえたちはれんがを作るわらを、これまでのようにこの民に与えてはならない。自分でわらを集めに行かせよ。

5:8 そしてこれまで作っていた量のれんがを作らせるのだ。それを減らしてはならない。彼らはなまけ者だ。だから、『私たちの神に、いけにえをささげに行かせてください。』と言って叫んでいるのだ。

5:9 あの者たちの労役を重くし、その仕事をさせなければならぬ。偽りのことばにかかわりを持たせてはいけぬ。」

5:10 そこで、この民を使う監督と人夫がしらは出て行って、民に告げて言った。「パロはこう言われる。『私はおまえたちにわらを与えない。

5:11 おまえたちは自分でどこへでも行ってわらを見つけて、取って来い。おまえたちの労役は少しも減らさないから。』」

5:12 そこで、民はエジプト全土に散って、わらの代わりに刈り株を集めた。

さて、このことは現代では歴史的な事実であることが判明しました。この過酷な労働の跡は、エジプトのピトムで発見されたレンガの中に伺い知ることができます。ナビール博士は1883年に、カイル博士は1908年に、その地の下層からよく刻まれたわらの入ったレンガを、また、中層からはわらの少ししか入っていない根から引き抜かれた刈り株入りのレンガを発見しました。そして上層からは粘土だけで、全くわらの入っていないレンガを発見したのです。これらの発見により、まさに聖書の出エジプト記の記述が全く真実であることが証明されたのです。



出エジプト時代のレンガ

箴言から学ぼう！:「神の知識」を見出すために

〔聖書箇所〕箴言 2:1-5

2:1 わが子よ。もしあなたが、私のことばを受け入れ、私の命令をあなたのうちにたくわえ、
2:2 あなたの耳を知恵に傾け、あなたの心を英知に向けるなら、
2:3 もしあなたが悟りを呼び求め、英知を求めて声をあげ、
2:4 銀のように、これを捜し、隠された宝のように、これを探り出すなら、
2:5 そのとき、あなたは、主を恐れることを悟り、神の知識を見いだそう。

この世において学問、哲学、科学などをはじめ、様々な知識があります。そしてそれらの知識を得るための種々の方法があります。書籍、雑誌、テレビ、インターネット等々です。たしかにそのような方法である程度の知識を習得できると思います。

さて、以上のことはこの世の知識についてですが、それとは別に聖書では、「神の知識」ということについて言われています。そしてこのことはクリスチャン生活を送っていく上でキーとなります。もちろん学問も尊いものですし、大事なことかもしれませんが、しかし信仰生活をしていく中でもっとも大事なことは、「神の知識」を得ることなのです。神さまを信じていないノンクリスチャンとクリスチャンとの違いのひとつとして、「神の知識」を持っているか？否か？ということがあります。ノンクリスチャンの時代には持つ必要は無かったかもしれませんが、しかしクリスチャンとして歩んでいくのであれば、「神の知識」を求めていくことが必須だと思われれます。なぜか？と言うと、聖書では、こと、箴言においては神さまの「知恵」とか「知識」について特に強調されているからです。そして神さまの知識や知恵を得て歩みをするのと、そうでないのでは、歩み方もそうですが、後における結論が全く変わってきます。きちんと神さまの知識を得て歩んでいくのなら、少しずつ神さまに似た者になっていきます。そして恵みや祝福に満ちた歩みに入ります。さらにその延長線上には、「永遠のいのち」が約束されていくでしょう。しかし一方、神さまの知識を得ずに、この世の知識のみに頼っていくときに、ノンクリスチャンとあまり大差のない歩みになっていくでしょう。そうするともしかしたら、ク

リスチャンと称していても、この世のノンクリスチャンと一緒に死後、さばかれてしまう可能性があるでしょう。

では、さいごに「神さまの知識」を見出していきたい！と思われた方に・・・どうすればよいのか？について簡単に要点を述べたいと思います。

① 1節に「私のことば」とありますが、これは「聖書」のことばを言われています。聖書に書かれていることを素直に信じていきましょう。そして、「私の命令」（神さまが聖書で言われていること）を心に留めていきましょう。そのためには「聖書」を毎日きちんと読んでいきましょう。参考までですが、レムナントキリスト教会では、一年に2～3回の通読をおすすめしています。

② 2節にありますように、「知恵」に耳を傾けて、「英知」（優れた知恵）に心を向けていきましょう。

③ さらに3節にありますように、「悟り」や「英知」を求めていきましょう。求めるには、具体的には「お祈り」が必要です。神さまにこれらのものをいただくことができるように祈って求めていきましょう。この世の知識はこの世において得られますが、神さまの「悟り」や「英知」はこの世でいくら探しても得ることはできません。しかしお祈りをするなら天からいただくことができますので、ぜひ全能なる天の父なる神さまに祈って求めていきましょう。

以上、「神さまの知識」を見出すための方法について述べさせていただきましたが、きちんと実践していく人には実現していきますので、もしよろしければ、ぜひ行ってみてください。



神の知識

聖書の視点から「死後」について考える:イエスさまを信じないとどうなるの？

〔聖書箇所〕ヨハネの福音書 3:18

3:18 御子を信じる者はさばかれぬ。信じない者は神のひとり子の御名を信じなかつたので、すでにさばかれている。

第1号では、死後2つの運命があることについて述べました。私たちは死んだあと、神さまの判断によって「天国」or「地獄」のどちらかに行くかを学びました。今回は、もしイエスさまを信じないとどうなってしまうのか？について話をしたいと思います。

上記ヨハネの福音書では、「御子(キリスト)を信じる者はさばかれぬ。信じない者は神のひとり子の御名を信じなかつたので、すでにさばかれている」ということが書かれています。「信じない者は神のひとり子(キリスト)の御名を信じなかつたので、すでにさばかれている」とはつまり、もし生涯にわたってイエス・キリストを信じないなら、拒否するのなら、もっと分かりやすく言うと、クリスチャンとして歩まずにノンクリスチャンのまま人生を終えるなら、「すでにさばかれている」と言われているように、「天国」に入ることはできないのです。ちなみに「さばかれている」のところはKJV訳では、「有罪の判決を受けた」と訳されています。そうなんです、たとえこの世では「有罪」にならなくても、後の世において神さまから「有罪」とされてしまうのです。そうすると残念ながら「永遠の刑罰」の場所に、つまり「地獄」とか「火の池」と呼ばれる所に死後、ダイレクトに連れて行かれてしまうので要注意です。これは私が言っているのではなく、聖書が言っていることなので、まぎれもない事実であります。

では、どうすれば良いのでしょうか？答えは単純明快です。イエス・キリストの「救い」を受ければ良いのです。イエス・キリストを信じて、ご自分の救い主として受け入れれば良いのです。その具体的な方法が下記みことばに書かれていますので、その通りに行えば良いのです。もし、「地獄」には行きたくない！と思われているのでしたら、ぜひ実践してみましょう。

〔聖書箇所〕ローマ人への手紙 10:9,10

10:9 なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。

10:10 人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。

このことを実践されたのでしたら、ダイレクトに「地獄」に行くことから免れることができます。もし、まだイエス・キリストを信じていないのなら直ちに信じましょう。そしてご自分の救い主として受け入れて、クリスチャンの歩みをスタートさせていきましょう！さらに詳しく、どんな歩みをすれば「天国」へ入れるのか？反対に「地獄」へ行ってしまうのか？に関して、聖書のみことばから少しずつ見ていきたいと思います。よろしければ、これからも共に学んでいきましょう。



死後の審判

キリストを信じた体験談:コンサートでの出来事(E3)

学生の時のことです。その日、以前から友人と一緒に演奏会に行く約束をしていたので授業が終わったあと、コンサートが行われる場所に向かいました。演奏会が始まるまで少し時間があったので、席で話をしていました。すると突然友人が「肩が凝っていて、少し痛くなった」と言ってきました。しばらくその部分をさすったり、叩いたりしたのですが一向に良くなる気配がなく、「これから演奏会が始まるけど大丈夫かな?」と思いめぐらしていました。

その時に、「あっ、そうだ!お祈りしてみよう!」という思いがとっさに心にわいてきました。その友人はノンクリスチャンでしたが、私がクリスチャンになったことを知っていたので、「じつはね、私が信じているキリスト教の神さまにお祈りするとね、助けてくれるんだけど手を置いて祈ってもいいかな?」と話をすると、「うんうん、そうしてくれる」と言ってくれたので、「神さま、〇〇さんの肩が痛むので良くしてあげてください。神さまの力によって助けてください。癒してくださいますように。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン」と痛む所に手を置いて祈りました。するとほどなくして友人が「良くなった!肩こりと痛みが無くなった。しかも目が少し疲れていてかすんでいて良く見えなかったんだけど、はっきり見えるようになった!すごいっ、うれしい、ありがとう!」と言ってくれました。私も思わず「良かった、良かった」と言って、そして神さまに感謝を捧げました。

この出来事は大分前のことですが、クリスチャンになってまだ間もない時でしたので、私にとって大いに励みとなりました。神さまがいること、イエスさまが癒してくださることは頭では分かってはいましたが、信じて祈って、その結果助けていただき感謝でした。

実際に癒すかどうかは神さまの判断にはなりますが、神さまは今も生きておられるということに私にあらわしてくださったのでは?と思います。そしてそのことは、神さまに頼っていくという習慣を少しずつ身に付けることのきっかけともなりました。その時から随分年月が経っていますが、これからも体調のことにかぎらず、何か事が起きた時には、一にも二にも、まずは唯一の神さま(イエスさま)に助けを祈り求めていきたいと思います。私個人のつたない体験ではありますが、何かのお役に立つことができたら幸いです。

“16:17 信じる人々には次のようなしるしが伴います。すなわち、わたしの名によって悪霊を追い出し、新しいことばを語り、

16:18 蛇をもつかみ、たとい毒を飲んでも決して害を受けず、また、病人に手を置けば病人はいやされま

す。”
(新約聖書マルコの福音書16:17,18[新改訳聖書])



コンサート

聖書と偉人:フレミングのことば／お知らせコーナー

<聖書と偉人> 「フレミングのことば」

フレミング:日本の高校生を悩ませる「右手の法則」「左手の法則」で有名な英国の物理学者



フレミング

聖書の四つの福音書にあるこれらの出来事(復活とその他の奇跡)の記録を研究してみなさい。そうすれば、あなたは確証済みの科学的事実や科学の原理の中には、何一つ、奇跡を信じることをさまたげるものはない、ということがわかるであろう。

<お知らせコーナー>

●月刊バイブル無料プレゼント！(限定5名様)

月刊バイブルお読みになっていかがでしたか？もし興味があり、購読希望の方はお申し込みください。尚、期間限定サービスとして、申し込み順で5名様までに、本紙、送料共に「1年間無料！」で送付することにします。ご希望の方は以下を記載の上、Mail:truth216@nifty.com もしくは fax:020-4623-5255 もしくは tel:042-364-2327 へご連絡ください。先着5名様に郵送でお送りします。

「月刊バイブル無料サービスに申し込みます。」

住所:

名前:

●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日/午前 10:30-12:30,午後 14:00-16:00

場所:東京都、京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館 (tel:042-360-3311)

1Fのエレベーター脇の部屋表示板で、「レムナントキリスト教会」の部屋を確認ください。

どなたでも来会歓迎、入場無料です。tel:042-364-2327, Mail:truth216@nifty.com

★教会のHPもあります。

ご興味のある方は、「Yahoo! Japan」で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。

尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス

<http://remnantnotudoijimdo.com/>

☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋

<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>